

第214回 社会保障審議会医療保険部会 ヒアリング

認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML
理事長 山口 育子

認定NPO法人

ささえあい医療人権センターCOML(コムル)とは

- 1990年スタート、2002年NPO法人(特定非営利活動法人)に、
- 2016年7月1日認定NPO法人認証
- 自立・成熟し主体的医療参加ができる賢い患者を目指す
一人ひとりが「いのちの主人公」「からだの責任者」の自覚から
- 対立せず協働⇒活動の目的
患者と医療者のより良いコミュニケーション
- 思いを言語化し、提言・提案できる患者・市民の増加が願い

COMLの活動(2026年7月末現在)



SP活動:1,866回(OSCE570回)

病院探検隊:113回



医療のmanabiya:8回
大阪患者塾:257回

講演:4,785回
各種検討会・委員会

相談:72,634件



患者と医療者のコミュニケーション講座:102回(出前16回)

◆基礎コース:医療をささえる市民養成講座(2009年度~18期)

◆アドバンスコース:医療関係会議の一般委員養成講座・委員バンク



懸念 ①

- 医療用医薬品とOTC医薬品で効能効果が異なる場合

医師がOTC医薬品の効能効果を把握しているとは限らない



別途の負担の対象になる場合とならない
場合を医師が容易に判断できる対策を

懸念 ②

- がん治療に伴う副作用・有害事象への対応

がん治療そのものが終了しても治療によって後遺症的に残る有害事象の可能性のために医薬品の服用が必要な患者も



難病患者への
治療をめぐっ
て同様の相談

医師によって判断のバラつきが生じる可能性

懸念 ③

- 低所得者や年金生活者の負担

2024年度の診療報酬改定で脂質異常症、高血圧症、糖尿病で診療所、200床未満の病院に通院している人は生活習慣病管理料の対象になった際、「1,000円も費用負担が増えた」という相談が数多く届いた



物価も高騰するなかで受診控えにつながる可能性も

患者・国民への丁寧な説明のために
例えば・・・厚生労働省でチェックシートを作成し医療機関や薬局で渡せるように

そもそも現在処方されているのがOTC類似薬かどうか

対象の成分・品目に該当しているか

どんな症状に対して処方されているのか

対象になるのかわからないのか、その理由は

お願いしたいこと

判断のズレやバラつきがないか実施後の検証を

対象を薬剤料の1/4から増やす場合は実態調査をおこない過度な患者負担にならない検討を